

佳作

## うつかやうとうな

茨城県 日立市立河原子小学校三年 叶野 舞彩

「リモコン取ってくれ。」

この言葉が、わたしのおじいちゃんの口ぐせのよ  
うに、毎日聞こえてきます。

わたしのおじいちゃんは、頭の病気で、わたしが  
三才のころから、右の手足が動きません。物を取る  
時や着がえをする時、お風呂に入る時など、だれか  
に助けてもらわなければいけません。

おじいちゃんは、思い通りに動かない自分の体が  
きらいになり、

「こんなじゃ、死んだほうがいい。」

と時々かなしい顔で話すことがあります。

そんなおじいちゃんを、わたしのお母さんやおば  
あちゃんが助けています。

お風呂に入って気持ちよくなると、おじいちゃん  
は、いつもニコニコとわらいます。わたしがへんな

顔をしたり、おもしろいダンスをおどると、口を大  
きく開けながら、わらってよろこびます。

おじいちゃんがわらっているすがたを見ると、  
わたしもうれしい気持ちになり、お母さんやおばあ  
ちゃんも笑顔になります。

おじいちゃんとおばあちゃんは、時々ケンカもす  
るけれど、上手に話すことができないうおじいちゃん  
の言葉がおもしろくて、ふたりで声を出してわらっ  
たりしています。

手足が動くことは、わたしにとって当たり前なこ  
とです。でも、当たり前なことができなくなっ  
てしまったおじいちゃんを見ると、当たり前なこと  
は、実はしあわせなことなのかもしれないと思うよ  
うになりました。

そう考えると、わたしは毎日、しあわせいっばい  
です。

このまま、おじいちゃんの手足は、元通りになら  
ないかもしれません。だけど、おじいちゃんがか  
なしい顔をしないでずっとわらっていられるように、  
家族でおじいちゃんをいっぱい助けてあげたいです。

そして、おじいちゃんのことを、「生きていてよ  
かった」にかえられたら、家族みんなで、しあわせ

を感じる事ができるのではないかと思います。

その言葉が聞けるように、わたしにできることを  
もっともっと見つけていきたいです。

わたしのゆめは、手足が動けるようになったおじ  
いちゃんと、外でいっぱい走り回って遊ぶことです。  
わたしのゆめ、いつか叶うといいな。